長泉町・さわやかハイキング報告書

| 通算山行 NO | 個人山行 | 報告者 | 井上弘二郎 |
|---|---|---|---|
| 年　月　日 | ２００９年４月１９日（日・快晴） | ２万５千 | 鳴沢 |
| 山　　名 | 富士山・吉田大沢（２９００ｍまで） | | |
| 体力度＝４・やや厳しい　技術度＝４・やや難しい　藪漕度＝ない　道標＝ある　トイレ＝吉田口５合目　展望度＝よい　三角点＝ない | | | |

# 富士山吉田大沢で山スキー

| | |
|---|---|
| コース とタイム | 5:00 長泉発－6:00 スバルライン入口着－（6:00～8:00 車中仮眠）－9:00 開門－9:41　5合目駐車場スタート－11:50 チーム分かれる－12:50 スキー開始（2900m）－14：10 駐車場着－16：00 長泉着 |
| 標　高 差 | 上り＝吉田口 5 合目２３００ｍ～２９００ｍ＝約６００ｍ<br>下り＝同上 |
| 参　加　者 | ＣＬ・後藤隆徳、中村圭吾、村上美恵子、井上弘二郎＋山本佳樹＝以上５名 |

ロータスは「蓮」の意味

約１年ぶりにスキーを準備した。久しぶりに戦いに挑む気分になる。もし頂上まで行くことになったら、スキーを持って上がれるだろうか？不安と期待が入り混じる。今日の荷物は 13kg＋スキー5kg で計 18kg と重い。

今回の目的は、来月の連休合宿のための雪中歩行訓練である。吉田口 5 合目に上がるのは久しぶりだ。25 年前、中学校の修学旅行で初めて来て、その次は 15 年前、社会人になった春に同僚とレンタカーで来て以来である。風景が懐かしい。

スバルラインが 6 時に開門するということで、5 時に出てきたが、入口まで着てみるとまだ開いていない。看板には 9 時からと書いてある。聞けば、なんと 6 時に開くのは明日からだそうだ。仕方なく、車の中で仮眠することにした。8 時に起き、突如、村上さんはロープワークの練習をすることになった。私たちの車の後続には豊橋ナンバーの赤いオ―プンカーが順番待ちをしている。

なんでも、カローラのエンジンを積んだロータスの車で、車重は 700kg くらいで、金額も 700 万円くらいとのこと。開門を待つ中国人観光客も次々と車の写真を撮っていた。9 時に開門し、往復の通行料 2 千円を払い、ようやく動き出す。赤いロータスが、かっ飛ばし抜いていった。

5 合目に着き、登山口近くに車を止めて準備に入る。後藤さん、中村さんと私は、

スキーブーツをウォークモードにし、スパッツと 12 本歯アイゼンをつける。スキー板はザックに取り付ける。村上さんはかっこいい冬用シューズに 8 本歯アイゼンをつけ、手にはピッケルを持つ。中国人観光客がまわりで騒ぎ、とてもうるさい。9:41、喧騒から離れ歩き始めた。暫くは雪の林道をほとんど水平のまま移動する。すでに太陽は高く、歩き始めから暑い。スタート時間が 3 時間も遅れたのが祟っている。ほとんど高度を上げないまま、全身汗だくでくたくたになる。左に目をやると、河口湖がきれいだ。御坂山塊もよく見える。山焼きの赤い炎が見える。高度感がすごい。

やがて登りに入る。先を行く後藤さんと中村さんは、スキーを担いでも歩くのが早い。村上さんと私は少し遅れてついていく。雪の上の足跡の上に足を置くが、ところどころで、雪が深くなり足を突っ込み、精神的にとても疲れる。

11:07、小休止（2530m）。1 時間半でようやく 230m 登った。4 時ごろに朝ごはんを食べてからかなり時間がたっていることもあり、おなかがすく。朝淹れてきたコーヒーがうまい。山中湖を眼下に、行動食のあんドーナツ、黒棒、ゼリーを食べる。犬を連れて登る人がいる。犬の散歩をしているような雰囲気である。富士山で犬の散歩とは、なかなか豪華だ。

時間が遅く体調がイマイチ

11:50、チームを分けた。雪中訓練の村上さんと指導の後藤さんのチームと、中村さんと私のチームだ。中村さんと私はあと 1 時間で行けるところまで登ることにした。この上で後から追いかけて来たレイホーの山本さんとニアミスしたが、結果的に分らなかった。

次第に空気が薄くなり、少し動くと苦しくなる。それでも一歩一歩上がり、上に見

える赤い鳥居を目指す。

前方には女性を含むグループがどんどん登っていくのを見て、なんとか追いつきたいと思うが荷物の重量の違いだろう、離されていく一方だ。12:50、2900m。ここまで約 3 時間で 600m 登った。くやしいけれど、時間切れだ。右側の沢に下りられる岩の切れ目を探しながら登る。中村さんが見つけた。ここで変身。ブーツはスキーモードにチェンジ。手袋を３枚セットに交換し、ストックの紐を手首に通す。板を斜面に平行に並べ、ブーツをビンディングにガチッとはめると気分は戦闘モードに切り替わる。さあ、いっくぞー。大沢は幅が広く、傾斜も適当で、1 年振りのスキーながらだんだんと勘を取り戻していった。雪質はよい。

吉田大沢は雪の海だ

雪上訓練に励む
何事も努力あるのみ

さっきまでの登りの苦しさを完全に忘れ、滑りに没頭する。スピード感が気持ちいい。大きなターンでは遠心力を感じながら、体を内側に倒し、スキー板で雪面を押さえつける。気分は最高である。小さなターンも試してみる。

斜度がちょうどいいので、自分の技術でも暴走しない。思うがままであった。立ち止まって振り返り、自分のシュプールを確認する。かっこいい。いいねぇ。やがて、右側下方に後藤さんと思われる小さな姿が見えた。ここで合流。

村上さんは単独で下山を開始したとのこと。心配しながらも、後藤さんが問題ないと判断したのだから多分大丈夫だろうと思った。思う存分滑降を楽しんだ。時々、後藤さんが携帯電話で村上さんと連絡を取る。

六角のお堂がよく見える場所で村上さんの姿を探すが見つけられない。どうやら下りすぎて道を間違えたようだ。林の中を苦労しながら滑り抜け、来たときの林道にでた。スキーを外し、ザックにセットする。後藤さんと中村さんは手馴れた感じで準備が終わり歩き始めた。手間取っていると、裾野麗峰山スキーの会の山本さんが下りてきた。初のご対面となった。山本さんとは、お昼に 8 合目で合流する見込みであったがうまくいかず、下りてからの合流になってしまった。

長い林道をとぼとぼ歩き 5 合目の駐車場所に戻った。あいかわらずの喧騒で、スキーの道具に興味をもった外国人が我々を取り巻く。多いのは中国人観光客だが、スイスからドイツ語を教えに来日している人がおり、日本語で質問をしてきた。

15～20 分後、村上さんが無事到着。何事もなく戻れてよかった。長い一人歩きでは、話し相手もいないので寂しかったのではないだろうか。状況を気丈に話す村上さんは、これまでより一段強くなったように見えた。

食べ損ねたお昼ご飯のおにぎりを帰りの車で食べた。うまかった。（１ヶ行方不明？？）帰りの車から見た富士山はとても大きく威厳があった。富士山は近くていい山です。ただ、吉田口に来るのに往復４０００－の有料は高い。

予定の温泉は中止し、グルメ中村さんのお勧め蕎麦屋に向かう。2 軒訪ねたが、定休日と休憩中で 2 軒ともあっさりとふられてしまった。次回に期待したい。

追記（後藤）

村上さんの雪訓は軟雪下の固い氷の急斜面で、登降・横断・滑落停止を行った。時間は短かったが有効な訓練でした。ピッケルはある程度重いほうが、効果があることを認識しよう。